資料６

令和7年9月4日（木）　北海道総合教育会議

北海道における地域創生を担う産業人材の育成と産学連携について

～　北海道の産業教育の現状と課題　～
第29期北海道産業教育審議会における調査分析を基に

北海道武蔵女子大学　専任講師　明田川　知美

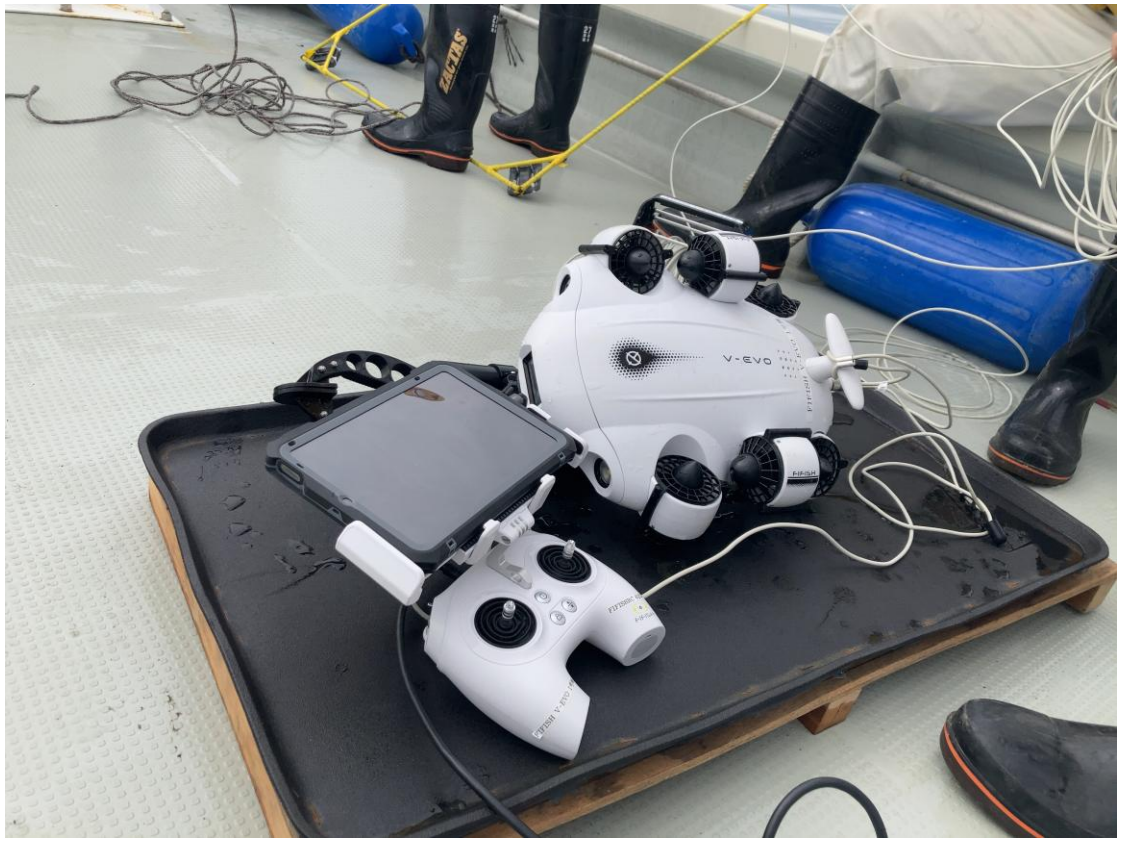
総論）検討のポイント

１　産業教育を、社会関係資本として活かす

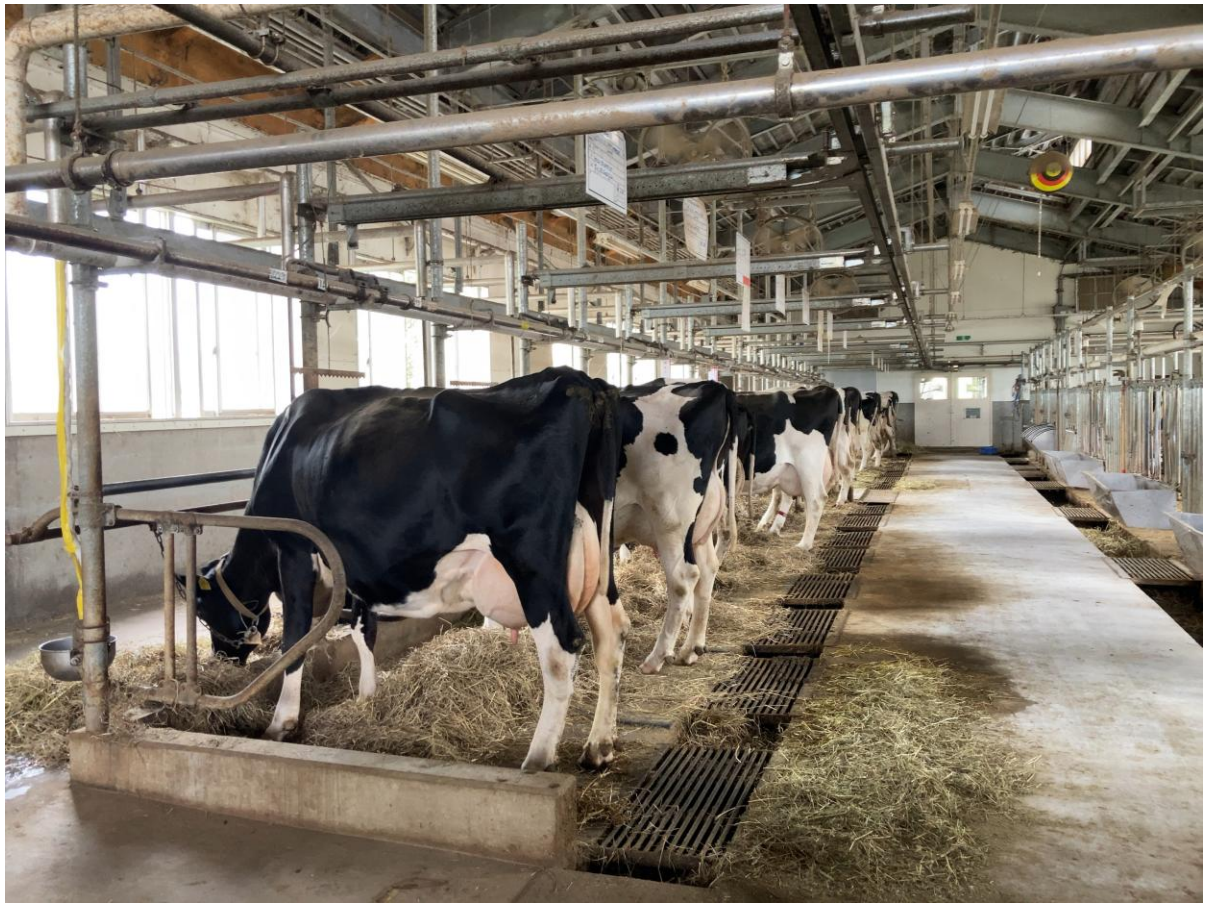
２　教育の再編成やパラダイムシフトを、戦略的に進める

３　これからの時代を切り開く次世代の育成

厚岸翔洋高校（普通科・水産科）


V-EVO

岩見沢農業高校



総論）検討のポイント

１　産業教育を、社会関係資本として活かす

２　教育の再編成やパラダイムシフトを、戦略的に進める

３　これからの時代を切り開く次世代の育成

美唄高校と美唄工業高校の統合
　　→美唄尚栄高校（総合学科）

留萌千望高校（商業科，工業科）と留萌高校（普通科単位制）の統合
　　→留萌高校（普通科，電気・建築科，情報ビジネス科）

名寄産業高校（名寄光凌−名寄農業）と名寄高校の統合
　　→名寄高校（普通科，情報技術科）

総論）検討のポイント

１　産業教育を、社会関係資本として活かす

２　教育の再編成やパラダイムシフトを、戦略的に進める

３　これからの時代を切り開く次世代の育成

・ラーニングコンパス（学びの羅針盤）

・生徒エージェンシー（行為主体）

・AARサイクル（見通し・行動・振り返り）

“OECD Future of Education and Skills 2030. “

本道産業教育の課題

１　専門高校の志願者が減少傾向

【専門高校の魅力】

２　職業学科を担当する教員の確保が困難

【職業学科の教員】

３　先端技術等を学ぶ機会の確保に向けた企業等とのより緊密な連携

【産業界との連携】

（１）【専門高校の魅力発信】に関する取組

（１）－１【建議案 p115 設問6】

設問６ 進学する高校の選択において、職業学科は選択肢に入っていますか。

【１つのみ選択】

項　目	回答数	回答者数に対する割合
１ かなり入っている（進学したい職業学科が具体的に決まっている）	226	13%
２ ある程度入っている（進学したい大まかな学科は検討している）	463	26%
３ 普通科等と職業学科で迷っている	191	11%
４ 全く入っていない	916	51%

回答者数：1,796名

職業学科が進学する高校の選択肢に入っているかについて、「全く入っていない」と回答した割合が約 51％と最も高く、次いで「ある程度入っている（進学したい大まかな学科は検討している）」が約 26％、「かなり入っている（進学したい職業学科が具体的に決まっている）」が約 13％となっている。

（１）－２【建議案 p112 設問1】

設問１　進学する高校を選ぶ際に重視するものは、次のうちどれですか。

【３つまで回答可】

項　目	回答数	回答者数に対する割合
1　自分の興味や関心に合ったことが学べる	839	47%
2　専門的な知識・技術を学べる	243	14%
3　実験や実習の施設・設備が充実している	159	9%
4　大学等への進学指導に力を入れている	354	20%
5　就職率が高く、就職に有利である	224	12%
6　自分の成績や学力に合っている	803	45%
7　部活動が充実している	499	28%
8　先生や在校生の雰囲気がよさそう	553	31%
9　自宅から通いやすい	627	35%
10　学費などが安く、経済的な負担が少ない	136	8%
11　校則が厳しくない	203	11%
12　制服が好みに合っている、または、私服で通学できる	121	7%

回答者数：1,796名

進学する高校を選ぶ際に重視するものは、「自分の興味や関心に合ったことが学べる」と回答した割合が約 47%と最も高く、次いで「自分の成績や学力に合っている」が約 45%、「自宅から通いやすい」が約 35%となっている。

（１）－３【建議案 p30 図12】

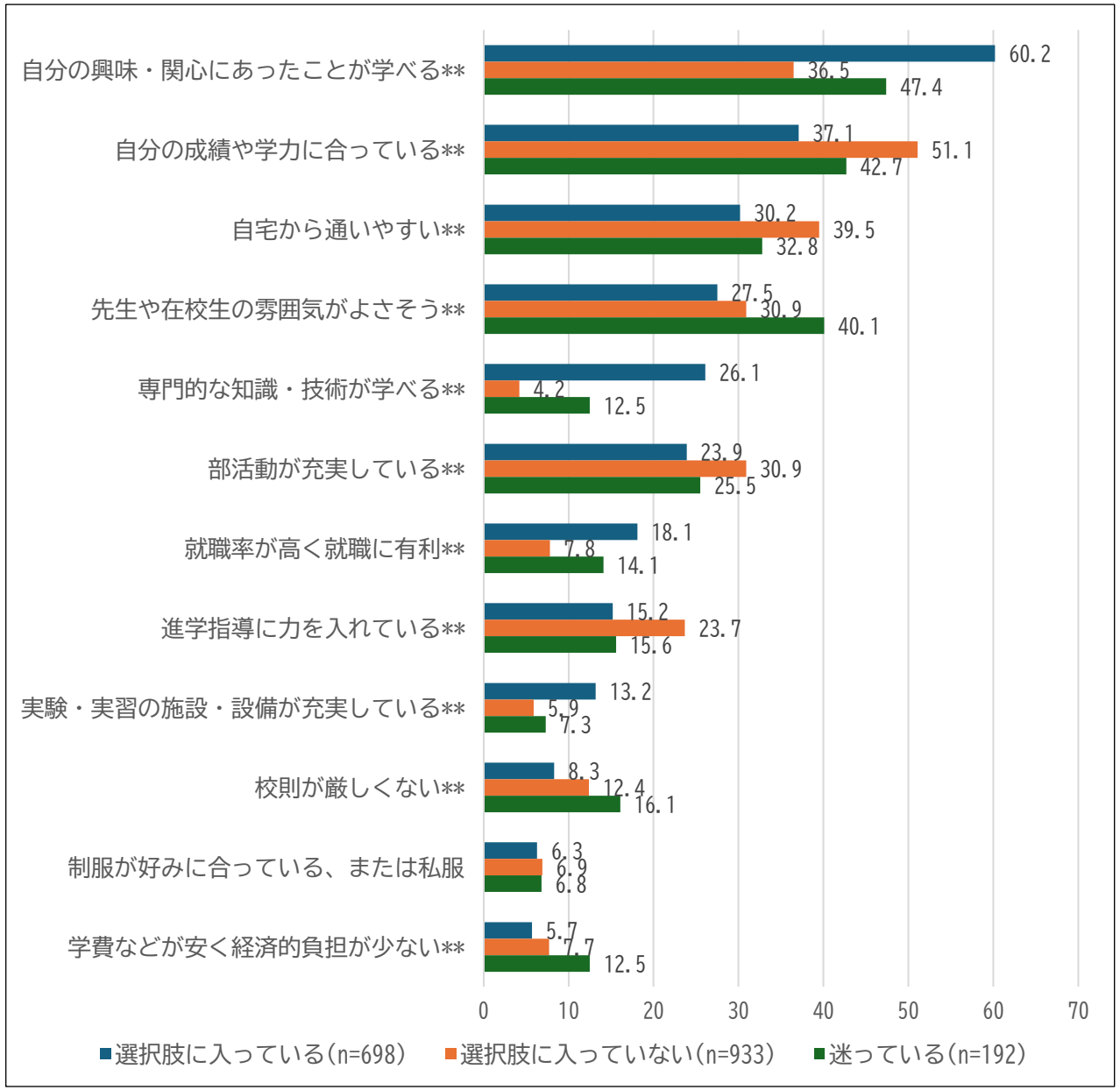


図 12　進学先を選ぶ際に重視する事項（%）

** p<.01

専門高校が選択肢に入っている（A群）

選択肢に入っていない（B群）

迷っている（C群）

（１）－４【建議案 p31 図13】

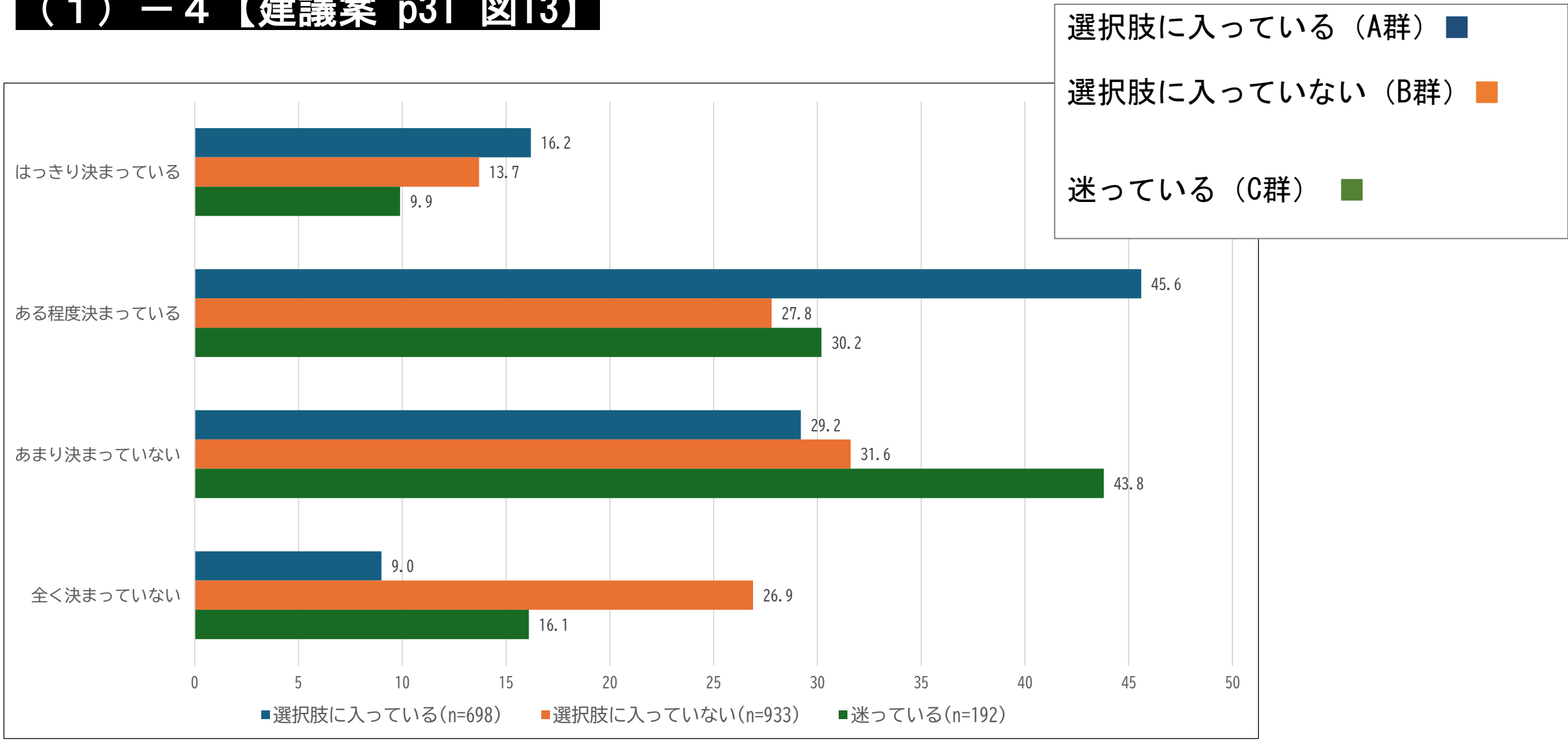


図 13　希望する職業はどの程度決まっているか（%）　p<.01

（１）－５【建議案 p113 設問2】

設問２　中学校卒業後の進路や高校での学習内容などについて相談する際に、誰の意見を参考にしますか。【複数回答可】

項　目	回答数	回答者数に対する割合
1　中学校の先生	1,156	64%
2　保護者	1,378	77%
3　きょうだい、親戚	538	30%
4　進学しようと思っている高校の在校生や卒業生	473	26%
5　進学しようと思っている高校の先生	193	11%
6　塾の先生や家庭教師	365	20%
7　同級生や友人	734	41%
8　テレビや新聞などのマスメディア	59	3%
9　インターネット上にある情報	311	17%
10　オンライン上の知人	41	2%

回答者数：1,796名

中学校卒業後の進路や高校での学習内容などを相談する際に、誰の意見を参考にするかについて、「保護者」と回答した割合が約 77%と最も高く、次いで「中学校の先生」が約 64%、「同級生や友人」が約 41%となっている。

（１）－６【建議案 p113 設問3】

設問３ 高校について情報を得る際に参考となるのは、次のうちどれですか。

【複数回答可】

項　目	回答数	回答者数に対する割合
1 高校が開催する体験入学や見学会	1,454	81%
2 高校が開催する出前授業	198	11%
3 高校の学校祭などのイベント	489	27%
4 中学校で開催される高校説明会	726	40%
5 高校の取組などを紹介した資料やパンフレット	784	44%
6 高校のホームページ	1,014	56%
7 SNS（Instagram、X、Facebookなど）	314	17%
8 その他	37	2%

回答者数：1,796名

高校について情報を得る際に参考となるのは、「高校が開催する体験入学や見学会」と回答した割合が約 81%と最も高く、次いで「高校のホームページ」が約 56%、「高校の取組などを紹介した資料やパンフレット」が約 44%となっている。

（１）【専門高校の魅力発信】“今後の提案”

１　知る機会の提供

２　実感する機会の提供

３　アクセスツールへの開かれた対応

４　予算確保

（２）【専門高校の教員確保】に関する取組

（２）－１【建議案 p101 設問3】

設問３ 現時点での教職に就きたい気持ちとして当てはまるものは、次のうちどれですか。【１つのみ選択】

項　目	回答数	回答者数に対する割合
１ 教職に就きたいと考えている	81	36%
２ 教職を中心に考えているが、民間企業等にも魅力があり迷っている	42	19%
３ 民間企業等を中心に考えているが、教職にも魅力があり迷っている	51	23%
４ 民間企業等に就職したいと考えている	51	23%

回答者数：225名

現時点で教職に就きたい気持ちとして、「教職に就きたいと考えている」と回答した割合が約 36%と最も高く、次いで「民間企業等を中心に考えているが、教職にも魅力があり迷っている」と「民間企業等に就職したいと考えている」が約 23%となっている。